

第3回 八百津町小中学校の 今後の在り方検討委員会

教育長
社本 勝義

1

委員会における これまでの議論

- ・ 小さい学校の良さがある
- ・ 現状からは、統合に向かうべき
- ・ 未来を担う子どもたちにふさわしい教育環境を整えたい
- ・ 教育委員会としての方向性を示して欲しい

2

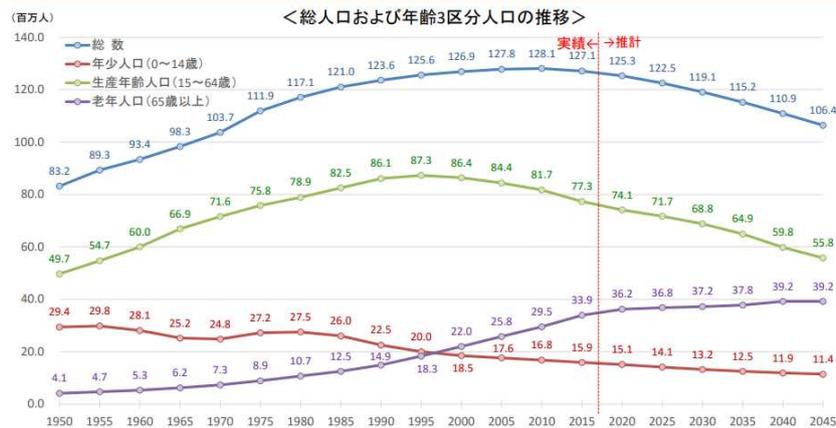
学校の統合をめぐる 全国の状況

〔子どもたちをめぐる環境を
どう考えているか〕

文科省主催「学校魅力化フォーラム」資料より
令和3年11月2日実施

人口推移の予測

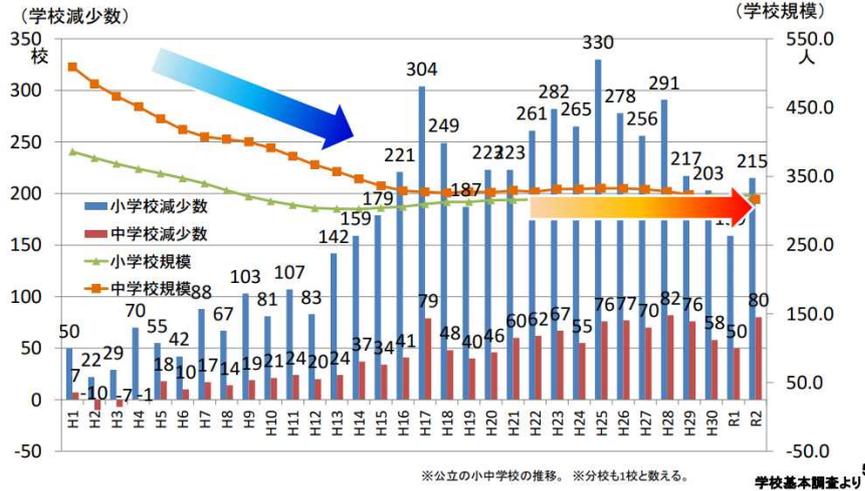
○ 総人口は2008年をピークに減少を始め、2040年には1億1,000万人程度と推計されている。
年少人口(14歳以下)についても1980年頃から減少の一途を辿っている。



出典：令和3年11月2日実施 文科省「学校魅力化フォーラム」資料より 4

近年の学校増減数と学校規模の推移

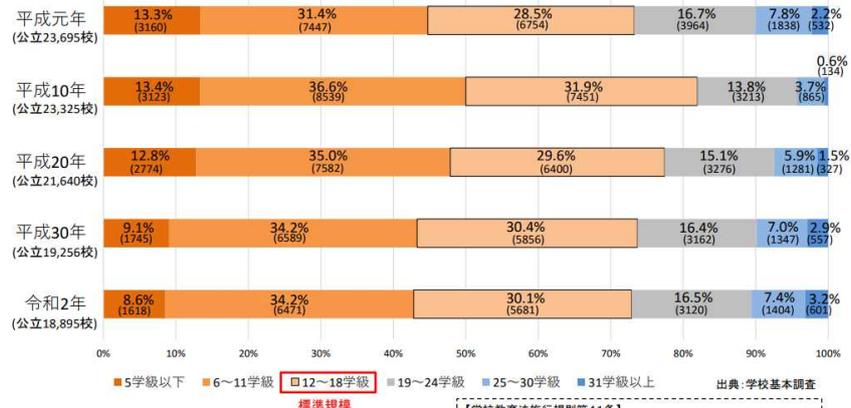
○ 小中学校ともに、毎年学校数は減少しており、平均的な学校規模については、近年、一校当たりの児童生徒数が300人程度で横ばいに推移している。



出典：令和3年11月2日実施 文科省「学校魅力化フォーラム」資料より 5

公立小学校の学級規模別学校数(割合)の推移

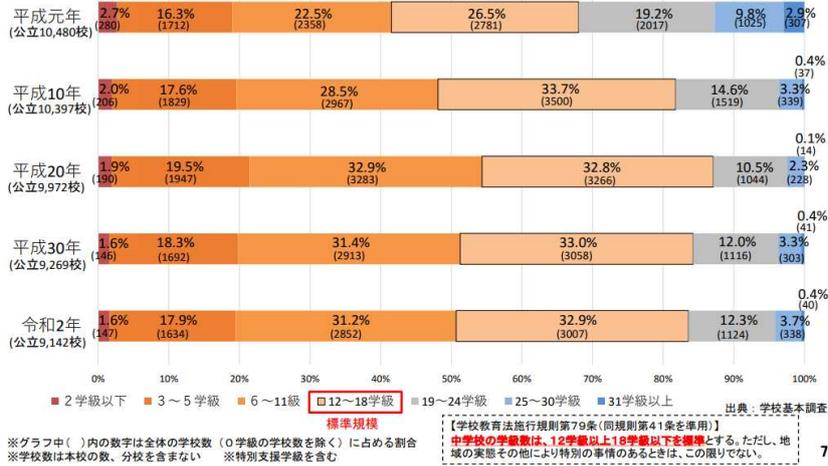
○ 複式学級が生じ得る5学級以下の割合は次第に減少し、令和2年度は10%を下回る。また、標準規模である12～18学級の学校は、全体の約3割となっている。



出典：令和3年11月2日実施 文科省「学校魅力化フォーラム」資料より 6

公立中学校の学級規模別学校数(割合)の推移

○ 複式学級が生じ得る5学級以下の割合は徐々に減少している。
また、標準規模である12～18学級の学校は、全体の約3割となっている。



出典：令和3年11月2日実施 文科省「学校魅力化フォーラム」資料より 7

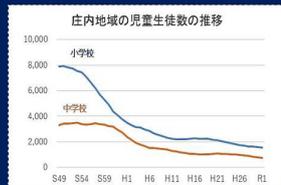
豊中市の概要

- ◆人口：401,322人(令和3年10月現在) <中核市>
- ◆小学校：41校 児童数 22,315人
- ◆中学校：17校 生徒数 9,602人
- ◆面積：36.6 km²

大阪府豊中市の事例

庄内地域の小・中学校の実情

- ① 小規模校化が進行し、人間関係の固定化や教育活動の制約などが生じている
- ② 1つの小学校から2つの中学校に進学する分割校があり、小中一貫教育が行いにくい
- ③ 家庭事情を背景とした生活・学習課題に直面している子どもが多い



庄内地域6小学校
平均 239人
各学年1～2学級

※令和3年度(2021年度)5月1日現在

出典：令和3年11月2日実施 文科省「学校魅力化フォーラム」資料より 8

委員会における これまでの議論

- ・小さい学校の良さがある
- ・現状からは、統合に向かうべき
- ・未来を担う子どもたちにふさわしい教育環境を整えたい
- ・教育委員会としての方向性を示して欲しい

9

「第2回までの議論」＋「子どもの未来」 をふまえた 教育委員会としての考え

1 1小1中への統合

- ・現実的な課題
→児童数の減少、老朽化、財政的課題
- ・教育的な課題
→社会性の育成、活動の制約

2 町内すべての学校の統合の時期

- ・校舎建設をふまえ5～10年後を想定
→住民説明、議決、設計、建築等
→校舎建設までの個別の統合も視野

3 統合による不安を解消する工夫

10

本日、協議いただきたいこと

夢あふれる学校（1小1中）に向けた意見交換

統合にかかる率直な意見を



**夢あふれる学校にするための
アイデアにつなぐ**